

# 体験寺子屋事業 実践事例（取組の一例）

実施区分  
日帰り（4日以上）

## ■ 実施主体

野球少年団

## ■ 参加対象

小学1～6年生

## ■ 実施・宿泊場所

小学校グラウンド など

## ■ 事業の目的

- ☑ 異学年交流・地区ボランティア活動を通じ、人間性・社会性・責任感を学ぶ
- ☑ 地域の子供たちへスポーツの楽しさ、素晴らしさを伝える

## ■ 体験活動の内容

クラフト体験、ボール投げ教室、夏祭り運営、地区清掃活動、スポーツ体験 など

## ■ スケジュール

1回目	2回目
<p><b>クラフト体験（7月）</b></p> <p>スポーツ体験を行う前に、オリジナルうちわ作りを実施し、熱中症予防の大切さを伝える</p>	<p><b>夏祭り運営（8月）</b></p> <p>スポーツ体験の実施と、団員が縁日屋台の運営者となり、地域にて夏祭りを実施</p>
3回目	4回目
<p><b>ボール投げ教室（10月）</b></p> <p>新体カテスト「ボール投げ」の記録向上を目指し、少年団コーチより上手な投げ方を教えてもらう</p>	<p><b>地区清掃活動（12月）</b></p> <p>「地区を知ろう」と題して、地区の清掃活動の実施とともに散策を通して、感想文を作成する</p>

## ■ 経費内訳

歳入項目	金額	内容
補助金	40,000円	県補助金
自治会負担	20,000円	—
団体負担	20,000円	—
<b>合計</b>	<b>80,000円</b>	

歳出項目	金額	内容
報償費	9,000円	講師謝礼 (3,000円×3人)
旅費	5,000円	バス代
需用費	51,000円	食糧費 材料費 印刷製本費 感染症対策
役務費	5,000円	保険代
使用料	10,000円	施設使用料 コピー代
<b>合計</b>	<b>80,000円</b>	

## Point

普段の練習等だけは補助対象の活動として認められないが、練習で集まった日に**体験活動を+αで実施**することで、補助対象になり得ます！

## ■ 工夫した点

- ☑ 全ての活動へ、少年団に所属する子供たちだけでなく、地域の子供たちの参加も募り交流の機会を提供した
- ☑ PRに力を入れるために活動ごとにチラシを作成し、印刷製本費を需用費にて支出した（ネットプリントを活用し経費削減を図った）

